

④1 (仮称) 青森市アリーナ及び 青い森セントラルパーク等整備運営事業

キーワード 市民の健康づくりとスポーツ振興、
多様な交歓及び防災機能を備えた拠点整備、
青森操車場跡地の有効活用、老朽化した市民体
育館の建替、DBO+Park-PFIの一括契約

受賞機関 青森市 都市整備部 公園河川課

全建賞審査委員会の評価ポイント

都市公園のPark-PFIと体育館のDBOを一括契約する独自の事業スキームにより、公園施設と体育館及び公募対象公園施設の連続性を向上させるとともに、日常的なスポーツ利用から大規模イベントによる集客、防災機能の強化まで、多面的に機能する施設群を一体的に整備・運営する体制を構築した点が評価された。

1. はじめに

青森市の市街地のほぼ中央に位置する青森操車場跡地は、平成10年に日本国有鉄道清算事業団から用地を取得して以来、その用途が定まらなかったため、暫定的な整備にとどまっていた。また、市民のスポーツ活動の場を中心とする青森市民体育館は、老朽化により建替が必要であったが、敷地が狭く、現在地での建替えは困難であった。

このことから、市民の健康づくりとスポーツ振興に加えて、交流人口の拡大と経済効果の創出を図ることを目的に、青森操車場跡地内の一部を都市公園（青い森セントラルパーク）として整備するとともに、スポーツのみならず多様な催事に対応できる交流拠点として青森市総合体育館（カクヒログループスーパーアリーナ）を整備した。

2. 事業の概要

本事業では、「質の高い市民サービスを提供できること」、「本市の負担の軽減につながること」、「事業機会の拡大、経済効果が得られること」等の観点から、民間事業者の資金やノウハウを活用し、効率的で質の高い公共サービスの提供が期待できることから、Park-PFI（公募設置管理制度）を採用した。

一方、青森市総合体育館の整備を特定公園施設や公募対象公園施設として位置づけた場合、整備費の削減効果や整備費を賄うだけの施設収益が見込めないといった課題もあったため、体育館整備部分は、コスト面で優位と想定されるDBO（Design Build Operate）を採用し、2つの事業手法を一本化した事業契約とした。



青い森セントラルパーク及び青森市総合体育館

3. 事業の成果

青森市総合体育館の特徴の一つは、体育館入口の正面に大屋根を備えた大規模な半屋外空間「ヨリドマ」を設置したことである。このスペースにより、地域住民や公園利用者等が天候に左右されることなく、日常的に活用しやすくなった。さらに、体育館を中心とした都市公園内で開催されるイベント等の催事を含む、幅広い用途に対応できる場となった。また、園内の多目的広場、こども広場、イベント広場との連携が容易となる配置としたことにより、健康・交流・防災の拠点として多くの人々に利用されている。

そのほか、公募対象公園施設として、スポーツクラブやカフェ&ベーカリーといった、体育館と公園との親和性が高い施設を整備したことで、更なる相乗効果が生まれている。



大規模な半屋外空間「ヨリドマ」

4. おわりに

今後も、本施設を健康・交流・防災の拠点として活用するとともに、事業者と連携して公園の更なる魅力向上を目指し、公園利用者及び地域の皆さまに愛される公園づくりを進めていく。

賛助会員 大成建設㈱